



2020年11月23日、勤労感謝の日

お家の一大事(笑)により、コロナ渦の東京行きを決意しました

その日、鎮座100年祭という言葉に惹かれて立ち寄った“明治神宮”です^^

神社に見る現代アート？！

異彩をはなつ、素敵なモニュメントが
参道脇に飾られていました



自然の中に、す〜っと溶け込んでいて
まったく違和感がないのが、不思議です^^

100年祭のキャッチコピーとして記されているのは

—— 最初の百年。これからの千年。まごころを繋ぐ永遠の杜をめざして ——

明治神宮は、明治天皇(第122代)と、その皇后である昭憲皇太后を御祭神とする神社で

御夫婦が崩御された後の、1920年11月1日

天皇(と皇太后)を慕う、国民の熱望によって創建されたとされます

明治天皇が亡くなってからの100年、さらに、これからの1000年

天皇御夫婦の深く人民を思う真心は、決して消える事なく人々の間に、永遠に引き継がれていくのだと

今回は初めての明治神宮参拝でしたが、とても慕わしく、嬉しく感じる私でした^^

明治天皇は、天皇を中心とする近代国家の礎を築いた、偉大なる霊覚者と言われます

私は教科書にでてくる、『五箇条の御誓文』や『教育勅語』等の単語を、

ただ丸暗記していただけ^^; ではありますが、時々ふと目にする御製(和歌)の中に、

心に深く染み入る“言霊”の力のようなものを感じていました

おごそかに たもたざらめや 神代より うけつぎきたる うらやすのくに

よもの海 みなはらからと 思ふ世に など波風の たちさわぐらむ

いかならむ ことにあひても たゆまぬは わがししまの大和魂

目にみえぬ 神のこころに かよふこそ 人の心の まことなりけれ

思ふこと つくろふことも まだらぬ をさなこころの うつくしかな

大空に そびえて見ゆる たかねにも 登ればのぼる 道はありけり

天皇が詠まれた歌は93000首にもものぼるとされ、上記はその中のほんの一部ですが、

優しい表現の中に、一国を率いる天皇としての、大きな志と、

その一方で、人に寄り添い、共に生きようと願う、限りなく繊細で、清らかな御心とが

私の真ん中にある、“大和の魂”へと響き、共感していたのだと思います^^

明治神宮は原宿駅を降りてすぐの所にあり、原宿とはどんな場所なのか？覗いてみたくて

若者で賑わう通りへと足を延ばしました

そこで、地方(田舎)に住む私には見えていなかった、貴重な経験をしました

通りを一人で歩いていると、なんだか血の気が引くとでもいうか、生気がなくなっていくような感じがします

見た目は華やかですが、大事なものが抜け落ちてしまったかのような、空虚感が広がっていきます

これが、“気枯れ”であり、神道でいう、“穢れ”なのかもしれない。。

こんな風に、気付かないうちに生命力が失われていく、それが現代社会の一つの姿なのかもしれません

そして、明治神宮の鳥居の前に立った時、中心から漲る^{みなぎ}力を感じ、生き返った！と思いました

自然とは、神とは、そういうことなのか！と実感しました

人は、自然の一部であり、神とは命そのものなのだ——

明治神宮がここに存在する事は、すごく幸せで、有難いことなのだ、しみじみ思いました

神宮の森(杜)は、最初からそこにあつたものではなく

荒地の中に、人の叡知と労力、真心を結集して造られた、人工の森なのだそうです

「自然との共生」、「生命の循環を守り抜く」という、着手の計画通りに

自然の循環系を見事に再現し、動植物が生まれ育つ、豊かな、永遠の杜(森)へと、

日々進化し続けているとの事です^^

明治神宮は、高層ビルが立ち並ぶ大都会の真ん中にある、緑の“オアシス”



明治神宮
ホームページより

どちらも人の手によって造り出されたものであり、人には∞の力、可能性があるのだと思います

核心に何を置くか？何を選択していくのか？は

私達一人ひとりに、平等に与えられた自由意志(意識)、権利であり、

同時にそこには、未来と全体に対する、大きな責任が含まれているのではないのでしょうか？

普段と違った環境に身を置く事によって得たものは、大きかったです^^

第一鳥居を越え、南参道を真っ直ぐ歩いていくと、大きな第二鳥居が見えてきました



木造の明神鳥居としては、日本一のスケールとの事
古風な木の鳥居が、光と影を艶やかに映し出すスクリーンのよう、モダンな感じがします^^
なんと、その向こう側で出迎えてくれたのは、菊理姫?!



毎年秋の大祭の頃に、「菊花展」が開催されるようです
“明治天皇”と“菊理姫”?! まったく結びついていなかった私ですが。。
白山さん手水舎の光景が浮かびます
“白山比咩神社”表参道にある手水舎には、リアルな龍神さんがいて(るように見える、笑)
その上方には、御製が飾られています(定期的? に変わっています)

下の写真は、2020年12月5日現在のものです



(こちらは、2020年9月9日に撮った、可憐な菊の花とハンサム? 龍神さんです^^)

「朝づく日豊栄昇る——」は、キラキラと輝きながら上る、美しい朝の太陽を讃える歌であり

龍神さんは、“根源天照皇太神”分身である“菊理姫”と共に、新時代を築く
日の本の黄金龍体であり、国常立太神であり、そして明治天皇でもあるのではないのでしょうか！



白く輝く第三鳥居を越えると、南神門が見えてきました



何とはなしに、心ウキウキ晴れやか、お祭り気分？

「勤労感謝の日」とは、以前は「新嘗祭」と呼ばれていたものが、昭和に入って改称されたとの事

新嘗祭の場に居合わせたのは、今回が初めてでした

たくさんの奉納品が並べられていて、作った方々の真心、喜びが伝わってくるようです

色とりどりの野菜で出来た“宝船”も飾られています



米や野菜(食)は七福神？！ 自然(神)からの贈り物！でもありますね^^

“新嘗祭”とは (ウィキペディアより)

新嘗祭(にいなめさい、にいなめのまつり、しんじょうさい)は、宮中祭祀のひとつ。大祭。また、祝祭日の一つ。新嘗祭は、天皇がその年に収穫された新穀などを、天神地祇(てんじんちぎ)に供えて感謝の奉告を行い、これらの供え物を神からの賜りものとして、自らも食する儀式である。

毎年11月23日に宮中三殿の近くにある神嘉殿にて執り行われる。同じ日に全国の神社でも行われる。

なお、天皇が即位の礼の後に初めて行う新嘗祭を、特に大嘗祭(だいじょうさい)という。――

日本では、古くから各地で五穀の収穫を祝う風習があった。また、宮中祭祀の中で最も重要な祭事として古代から行われてきた。

昭和23年(1948年)公布の国民の祝日に関する法律により、勤労感謝の日と改称されて国民の祝日となっている。――

また令和になって記憶に新しい“大嘗祭”について

日本の天皇が皇位継承に際して行う宮中祭祀であり、皇室行事。

新天皇が即位(現代では国事行為となる即位の礼の各儀式が終了)した後に、新穀を神々に供え、自身もそれを食する。

その意義は、大嘗宮において、国家、国民のために、その安寧、五穀豊穰を皇祖天照大神及び天神地祇に感謝し、また祈念することである

とあり、新天皇が誕生して、最初で一回きりの、“新嘗祭”の事であることがわかりました^^

明治天皇即位について、

慶応4年1月15日(1868年2月8日)元服し、同年8月21日(10月6日)からの一連の儀式を経て、

8月27日(10月12日)、内裏(京都御所)にて即位の礼を執り行い、即位を内外に宣明する

(大嘗祭は、明治4年11月17日<1871年12月28日>に東京で挙行)。

明治天皇即位の大礼は、京都御所で、大嘗祭は東京(東の京)で行われたとあります

戦前までの即位の礼の舞台、京都御所^{ししんでん}“紫宸殿”と言えば、

2020年7月に作成したコンテンツ、「黄金の光の坂道(真・黄泉比良坂)^{よもつひらさか}」の中で

「イニシエーション」(通過儀礼)という言葉が、明確にイメージされた、自身にとって特別な場所です



はるばる
宇宙人さん?も、
お越しくださいました(笑)

私にとっての即位の礼＝“根源の皇のイニシエーション”とも言えるものです^^

今回、そんなつもりはなかった(のは地上セルフのみ?)のですが

外拝殿の木の下で、祭典のはじまりから終わりまで、立ち続けることになりました

何故か突然、東京という場所に来る事になり、はじめての新嘗祭＝“大嘗祭”に参加するという、まるで明治天皇の足跡をたどるような、思ってもみない展開に、驚きとワクワクを感じ

何かはじまる、予感！！です^^



新嘗祭が始まる前、ここに来られた事に対する感謝と、決意の参拝をしました

その時、物凄い風が吹いてきて、木が大きく騒めく音と、

右手の方から、カタカタ(絵馬がぶつかり合う音?)という轟音が巻き起こり、びっくり!しました

祈りは、届いた！！そんな気がしました^^ (今回のタイトル?)

改めて写真を見ても、拝殿の両側に同じ位の大きさの、こんもりとした丸い木が立っています
木は△(三角)という固定観念があったみたいで(笑)、珍しいのと、なんだかほのぼのします^^

「平等」とか、「対等」とかいったメッセージが浮かび、妙に気になります

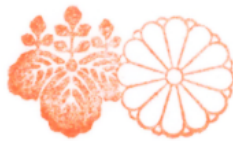
私がその日、無意識に立っていたのは、向かって左手の方で、
二本の木が繋がって一本のように見える、“夫婦楠”^{めおとくす}と呼ばれる木の下でした
仲睦まじく並ぶ、明治天皇と昭憲皇后の御姿とされ、良縁に恵まれるパワースポットとの事です
「日本(二本)が一つになる！」と浮かびました^^



祭典の途中、反対側の木の上に、何かの掛け声のような、可笑しな声で鳴くカラスさんがいて、
みんなの注目を浴びていました^^

カラスさんから連想されるのは「裏天皇」や、「南北朝」という言葉です
そこには複雑な人間模様と、歴史の経緯があるようで、私にはよくわかりませんが
両側に別れて立つ木が、そういった歴史の二面(二極)性＝“陰と陽”、“表と裏”を象徴していて、
その真ん中、ゼロポイントが、“明治(天皇)”という感じがします
「明治」には、その表記から、「日」と「月」が重なって、一つとなって治める世、
という意味があるのではないのでしょうか？

明治神宮は、“菊”と“桐”、二種類の模様が重なった、珍しい紋章である事に意識が向きました



天皇家と言えば、「菊の御紋」のイメージでしたが、調べてみると、実は三種類あり
一番古くからあったとされるのが“日月紋”と呼ばれるもので
平安時代になると“桐紋”が加わり、“菊紋”が用いられるようになったのは鎌倉時代との事です

“日月紋”は、

“日”を表す金色の○と、“月”を表す銀色の○が描かれたもので
現在でも、即位の大礼の際に用いられる“錦の御旗”等に見ることができます



金色の日は“天照大御神”、銀色の月は“月読命”を表すとも言われます
先に述べた、私が拝殿の両脇にある、大きな丸い木が気になっていた理由は、
この“日月紋”を感じたからなのだと、今わかりました^^

そして、次の気になる。。。が(笑)

皇位継承の印として、重要視されている“三種の神器”とは何だろう？です



三種の神器 /
画像は想像図であり、
実物は非公開。
ウィキペディアより

日本神話において、天孫降臨の際にアマテラス(天照大神)が、ニニギ(瓊瓊杵尊、邇邇芸命)に授けた
三種類の宝器であるところの鏡と剣と玉(璽)、すなわち、八咫鏡(やたのかがみ)・
天叢雲剣(あめのむらくものつぎ、別名:草薙剣くさなぎのつぎ)・八咫瓊勾玉(やさかにのまがたま)の総称である。
また、これと同一とされる、日本の歴代天皇が古代より伝世してきた、三種類の神器(神から受け伝えた宝器)を指す。
また、第2義のほう(歴代天皇が伝世しているほう)は、三種のうち剣と璽(皇位の印章としての玉)を併せて
「剣璽(けんじ)」と称するが、「三種の神器」の別称でもある。
三種の神器を伝世するにあって、実見することは如何なる者にも許されず、歴代天皇でさえも例外ではないという。
それほど秘中の秘であるがゆえ、多くの面が謎に包まれている。

実見することは、歴代天皇でさえも許されない、秘中の秘——との事で、
私が考えても、わかるはずありませんが(笑)^^

鏡は、高天原の主である“アマテラス”が、「これを私と思うように」と言って、ニニギに渡したとされる
天孫降臨神話が有名で、“日”(太陽)を象徴するものと感じます
勾玉については、関連するエピソードが思いあたらないので、ずっと「？」でしたが
そう言えば、形が三日月に似ているような気がして、“月”や“ツキヨミ”がイメージされてきました
そして、“剣”は、大地(海原)の主“スサノオ”が、八岐大蛇を退治した時に
その尾から出てきたものとされ、“地”(地球)が連想されます
以前、剣璽動座(けんじどうざ、天皇が行幸する際に、侍従が剣璽を携えて随行すること)の光景を
TVニュースで見た記憶がありますが、天皇(太陽、鏡)を中心として、
その周りを廻る、月(勾玉)と地球(剣)のイメージでもあります^^
三種の神器にも様々な次元の働きがあり、大きくは“日月地”の三位一体力を表すものでもあり
天皇家が大切に継承してきたのは、日本という枠を超えた、全地球規模に及ぶ
大いなるパワー(宇宙レベルのエネルギー)だったのではないのでしょうか？

また、皇室に伝えられている三種の神器のうち、“鏡”と“剣”はレプリカ(複製)とされ、
皇居内にある実物は、“勾玉”のみで、

“鏡”の実物は伊勢内宮に、“剣”の実物は熱田神宮に祀られているとの事です
エネルギーは時空を超越するので、たとえレプリカであっても、同じ力を秘めるとされますが
実物は、それぞれがあるべき所にあり？ 天皇家は月と最も関わりが深い、という事なのかもしれません
三種の神器からもう一つ連想されるのが、鏡(女性性の象徴)と、剣(男性性)から生まれた、勾玉(胎児)で
勾玉には、“統合”の意味があるように感じられます
地上セルフは2013年に、白山の神意によって、熱田神宮の“剣”と、伊勢内宮の“鏡”を結び(ククリ)
2020年に、月読(月夜見)宮や明治神宮、皇居を訪れる事により、“勾玉”が動き出した？
日月地(三貴神)の統合であり、三種の神器が揃い、三位一体力が顕現する中今となったのでは？！
そんな風にも感じられ、ワクワクしてきました！^^

“桐紋”の桐は、

古来より、鳳凰が止まる木として、神聖視されてきたとの事で
嵯峨天皇の時代、儀式の際の衣服に、桐の文様を入れたことが始まりであるようです
桐紋は、菊紋とともに皇室専用の家紋でしたが、後に皇室以外の戦国大名なども用いるようになり、
皇室は専ら、菊紋章のみを用いるようになったと言われます
現在桐紋は、内閣総理大臣紋章にもなっていて
「五七桐花紋は、歴史上、皇室や政権担当者が紋章として使用し、
内閣総理大臣・日本国政府・内閣府が、政府の紋章として使用している。」と記されています
政府の桐紋が、天皇家からはじまっていたとは？！紋章にはほとんど無関心で
そう言えば、庶民には重みのある(笑)五百円硬貨に描かれているのは、桐の模様なのでした^^



“菊紋”(菊花紋)については

観賞用のキクは、奈良時代に中国大陸より伝えられた。
高潔な美しさが君子に似ているとされ、梅、竹、蘭と共に四君子とされた。
鎌倉時代には、後鳥羽上皇がことのほか菊を好み、自らの印として愛用した。
その後、後深草天皇・龜山天皇・後宇多天皇が自らの印として継承し、
慣例のうちに菊花紋、ことに32弁の八重菊紋である十六葉八重表菊が、皇室の紋として定着した。
1947年(昭和22年)に皇室儀制令は廃止されたため、菊花紋章を天皇・皇室の紋章と定め、
または日本の国章と定める現行法令はない。しかし、慣例的に天皇・皇室の紋章として、
または日本の国章に準じる紋章として、菊花紋章が用いられ続けている。

(ウィキペディアより)

花卉の数に深い意味がこめられていて、要注意?! でもあるようですが

16菊花紋が、“皇室の正統な紋”とされ

太古、日本から16人の皇子(15皇子と1皇女)が、世界(五色人)を治めるために派遣された、
その象徴とも言われるようです(16方位の元でもあります)

天皇家において、一番後から出てきた“菊花紋”が、現在最もメジャーな理由が
ウイングメーカーである“菊理姫”にある!と、私は密かに思っています(笑)

私にとって“菊”は、NMCの中心“**根源天照皇太神**”から生まれ広がる、∞(メビウス)の光の輪!

“根源の究極の愛”が、日本から世界へと、無限に拡大していく様であり

まさに、天照大御神を皇祖とする、天皇家の紋章です

そして、中今の白山神界の中心“**菊理姫**”でもあります! (*^^*)

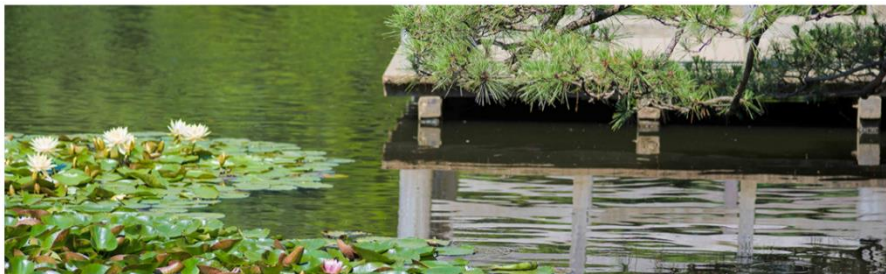
紋章は、二次元の模様ではなく、多次元エネルギーであり、そのつながり(ネットワーク)なのだと思えます

明治神宮には、これら3つの紋章の、全てのパワーが秘められているのではないのでしょうか?!

明治神宮御苑内へと入ってみました

明治維新後に皇室の領地となった、武家(熊本藩主加藤家、彦根藩主井伊家)の庭園だった所で

明治天皇お気に入りの場所であったようです



明治神宮
ホームページより





菖蒲やつつじ、紅葉、野鳥のさえずりなど、四季折々の風情を楽しむ事ができる庭の一画に人が順番を待っている場所？があり、つられて並んでみました（ちゃんとパンフ見ればどうなの？ですが^^;)
ん？覗いてみても、なんだか分からない(笑)



この場所は江戸初期に加藤家の庭園だったことから、加藤清正が掘ったと伝えられる“清正井(きよまさのいど)”で、清水がこんこんと湧きだす源泉との事です
明鏡止水？一点の曇りも揺れもない、美しい鏡のようです
こんなひっそりとした場所の、小さな穴の奥から、音も、気配もなく、∞に溢れ出してくるのが大地の恵み、“水”なのですね^^ 感謝です
ここは明治神宮における、龍神さんの、大切な住み家のような気がしてあまり観光化される事なく、静かであって欲しいと思う私でした

何故今、明治神宮なのだろう？ 明治天皇の願いは何かしら。。。？

と考えていて、思い浮かんだことは、

激動の時代とされる“明治維新”とは、“大和の魂”が、再び、全世界に向かって開かれた
大いなる時代の幕開けだったのでは？ということでした

明治天皇は、即位の大礼において

「新時代の象徴として、式典において地球儀を用い、皇威を世界に知らしめることを目的とした」

とあります(ウィキペディアより)

皇室の祖は、伊勢内宮に祀られる“天照大御神”です

11月に発進した自身のコンテンツ「根源の天の岩戸開き」の中にも記しましたが、

中今の御祭神は、NMC(新マクロ宇宙)の核心、究極の母性である“根源天照皇太神”です^^

伊勢神宮において“天照大御神”は、“天照皇大神”ともいわれ

“根源天照皇太神”との、表記の違いは、

「根源」の文字が最初にくる事と、「大」の文字の中にテンが入った、「太」となっている点です

私の“天照皇大神”という表記に対する、個人的な感想としては

大事なもの(テン、核)が抜けているような、なんとなく不自然な感じがします

自己の核心＝“魂”との共鳴が感じられない、発動していない…。という状態であるような気がします

日本の人(日戸)の内なる魂(大和魂)とは、自己の中心に輝く太陽であり、

すべての命の源である“根源天照皇太神”分御魂とされ

それは、言葉で表現出来ない、日本人の持つ、独特の感性とも言えるのではないのでしょうか？

漢字ペディアを参考に、二つの文字の意味を比較してみると、新発見がありました^^

「大」は、主に、形や規模の大きさ、数や量の多さを示す言葉であり

「太」には、中味の濃さ、という観点や、おおもと、はじまり、という意味もあって、

また、そのものずばり、「太陽」の「太」でもあります^^

外へと大きく広がっていく様や、その力強いパワーが、「大」という文字の持つ意味で、

逆に、内へと凝縮されていく力、中心核のもつ∞のパワーが「太」で

まさに“根源天照皇太神”の姿であり、「根源への回帰」という言葉の意味、そのものではないでしょうか

そして、今回私が疑問に感じていた事の答えに、つながりました！

昔の神宮大麻には、「太」という文字が使われていたそうで、確かにネット上でも見る事ができます
けれど、明治天皇の時代になって、それらすべてが「大」の文字へと変更、統一されたのだそうです？！

明治天皇は、皇祖神である「天照神」を、とても大切にされていたと言われ

究極の源である“根源天照皇太神”を、感得されていたのではないのでしょうか？

何故その核(テン)を外してしまったのか？不思議な気がしていました

けれど、「大」には、地上を横へと拡大していく大きな力＝「開国」のパワーがある事がわかり

日本が諸外国と肩を並べる事、強靱な近代国家へと進化・成長することが、

“明治維新”の大きな目標であり、

その先の千年を見据えた、神の経緯だったのかもしれない…と

そして今、「大」の中にテンが入り、“**根源天照皇国日本**”を中心とした

“地球維神”の時がやって来た！！



この絵は、私の中にある“地球維神”のイメージです

∞に拡大する、強烈な赤！根源の愛のパワー！を感じるのですが、

そのためには、究極のクリスタル地球となる事が、どうしても必要なのだと思います

地球自身が波動を上げ、地上の浄化活動を進めている今

私達は、私達自身のクリスタル化を目指さなければ、地球と共にある事は出来ません

自身のクリスタル化とは、どうすれば出来るのでしょうか？

それは、これまで蓋をしてきた諸々のネガティブな感情や、習慣化してしまった古い思考等を

一旦表に曝け出し、認めることによって、解放すること、手放していく事と言われます

宇宙レベルのマスターであり、永遠の命であるハイアーセルフは、その人にとって今必要な事を知っていて

地上セルフは否応なしに、そうせざるを得ない状況に、追い込まれるようです^^;

そんな時は慌てることなく、ただ客観的に、こんな感情(思考)が自身の中にあったことを、静かに認め

光に包んで、天へと帰すこと(意識を解き放つこと)、それでいいのだそうです^^

私達が見ている現実とは、意識によって創り出されたホログラム(仮想現実)であり

意識を変えれば、瞬間に変わるのです

重い石を、一つ一つ運ぶようにして、壊さなければならない壁など、どこにもありません

深く反省する事は、一見美德であるかのように見えますが、取り返しのつかない過去の出来事に、

自分で自分を縛りつける、呪縛という名のトリックでしかありません

アセンションの学びとは、宇宙の科学であり、誰もが同じ結果を出すことが出来る公式のようなもの

変えられるのは、“今ここ”だけで、私達が迎える未来は、今この延長上にあります

今、愛と光を選択すれば、未来は愛と光でしかありません！そして同時に、過去も輝いて見えてきます^^

新しい地球はもうそこにあります、けれど、そこがどんなに素晴らしい所であっても

私達自身が変わらなければ、また同じ世界となってしまう…、その準備のための今なのだと思います

風の時代、水瓶座の時代が来ると言われていますが、実際どのような世界なのでしょう？

私が感じている事をまとめてみると

これからは、他人の目を気にしないで、自分軸で生きる時代になる、という事なのだと思います

絶対動かすことが出来ないと思い込んでいた大きな組織や、固定観念の枠が崩壊し

全ての人々が、自分で自分の未来を、自由に創造する喜びを知る時代です

“物”よりも“情報(叡知)”に価値を見だし、その情報は外側から得るのではなく、

自身の内側から、宇宙という、広大なエネルギー空間とつながることで、∞に湧いてくるので

逆に、しっかりとした自分というもの、明確な目標や信念がなければ、

宇宙(エネルギーと情報の大海原)に漂えるクラゲ、となってしまうかも？です

自分が一番大切と思うことを、一番大切に生きていく事が出来たら、どんなに幸せでしょう！

地上セルフの私は、大切な一人娘に“愛”という名前をつけました！

それは、間違いなく、1ミリも迷うことなく、宇宙の中で、私にとっての一番だからです

でも、間違っていた事があります！愛は私が付けた名前なのではなく

愛が、そのままの愛として、ただ私の傍にいてくれた。。。だけなのでした^^

愛しく、美しい、全ての子供たちに、愛と光と希望の未来を届けたい！！！！

新しい地球は、宇宙の根源、究極の愛の源であり、“**愛の一番星**”です！



宇宙中の愛と光よ、この指と一まれ！！！！

根源アセンションプロジェクト
HAKU (hamu) SUN
<http://ascension-hokuriku.net/index.html>

NMCAAは、根源天照皇太神の地上ポータルであるAi先生を核とした

地上のアセンション学校であり、愛の家族です^^

母であるAi先生と、父であるT先生(名前を書くと、何故かイエローカードが飛んできます、笑)は
スピリチュアルと科学を融合した、宇宙のグレートマスター！！
自分は時々、ただの変な人…？と思う事があり、そんな時、Ai先生とT先生が浮かびます
自分の事が信じられなくなっても、お二人の事は信じられる！？何故ならば、
いつも変わらぬ、深い愛と、知性と、良識とに溢れた、普通の人として、ここにあるからです^^
地上には、根源まで続く“愛と光の柱”があり、すべての次元とつながっている！
神々やマスター、天使、妖精、お化け？も、愛さえあればOK！の、未来の宇宙博物館！！
中今の地球は、超～～面白い？！

はじまってるよ——！！！！
ハム(愛)の地球維神！！



2020. 12. 13 皇美(善美 rumines)